

No.	施策をすすめるにあたっての基本方針	2050年目標	2050年目標に対応する指標	モニタリング方法	指標設定の理由
1	様々な立場の人々と連携・協働して生物多様性の保全を進める。	生物多様性保全に関する目標1 札幌市内の生物多様性が回復し、絶滅のおそれのある種が減っている。	レッドリスト掲載種数が2016年（297種）から増加していない。	レッドリストの改定年に決定した種数（おおむね10年ごと改定予定）	絶滅が食い止められていることで、生物多様性の損失が食い止められていると考えられるため。
2			レッドリスト掲載種のうち、今見られない（EX+EW）が2016年（12種）から増加していない。	レッドリストの改定年に決定した種数（おおむね10年ごと改定予定）	絶滅が食い止められていることで、生物多様性の損失が食い止められていると考えられるため。
3		生物多様性保全に関する目標2 札幌市内において保全地域が拡大している。	保護地域及び自然共生サイトの面積を拡大する。【数値設定なし】	保護地域の面積（どのぐらい増えたかを確認）及び認定地域の面積（環境省に認定地域の面積は確認可能） ※現状、保護地域の面積は370.1803ha	保護地域、認定地域は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として確認可能であるため。
4		生物多様性保全に関する目標3 札幌市内の生態系に影響を及ぼす外来種の生息が抑制されている。	市内において新規外来種の定着が確認されない	生物調査や市民からの通報により新たな外来種の定着に関する情報の有無を確認	新規外来種の定着がないことで、新たな外来種による影響が生じないことを確認できるため。
5		生物多様性保全に関する目標4 札幌市内の生物多様性が回復し、野生鳥獣とのあつれきが減っている。	エゾシカによる交通事故件数の減少 年間●件以下	交通事故件数は警察のデータを確認（令和3年発生件数116件）	エゾシカの交通事故件数は市街地への出没により発生した影響を把握する指標となるため。
6	生物多様性への理解を深め、将来に伝えていく。	生物多様性の理解に関する目標1 生物多様性を理解している市民が増えている。	生物多様性の言葉の意味を知っている市民の割合 ●%	市民アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果35.1%）	生物多様性について理解されているかどうか直接確認できるため。
7	札幌市は消費都市であることを認識し、札幌市、市民、企業、活動団体等は連携協働して地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う。	生物多様性に関する配慮や行動の実行に関する目標1 生物多様性に配慮した行動をする市民、企業、活動団体が増えている。	生物多様性に配慮した行動のうち、保全活動に参加している市民の割合 ●%	市民アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果3.3%）	市民が生物多様性に配慮し、具体的に行動しているかを確認できるため。
8			原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品、サービスの購入をしている企業の割合 ●%	企業アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果52.2%）	企業が生物多様性に配慮し、具体的に行動しているかを確認できるため。
9			生物多様性に配慮する取組に関する情報公開をしている企業の割合 ●%	企業アンケートにより確認（令和3年度アンケート結果14.1%）	企業が生物多様性に関する取組を公表することは、適切に取り組んでいる証左となるため。
10			他者が行う生物多様性保全に寄与する活動への連携・協働による参画または寄附等金銭的支援を実施している企業の割合 ●%	企業アンケートにより確認（新規質問） ※【参考】企業アンケートで近い質問内容あり。 他者が行う生物多様性保全活動への参加 令和3年度アンケート結果28.1%	連携による取り組み事例がどの程度あるのか、その取組の広がりを確認できるため。

	…現行生物多様性さっぽろビジョンで進捗管理していた項目
	…2050年目標とし、2030年までは一旦段階的な目標値を設定することを想定した項目

No.	施策をすすめるにあたっての基本方針	2050年目標	2030年目標案（進捗管理）	モニタリング方法	指標設定の理由
11	様々な立場の人々と連携・協働して生物多様性の保全を進める。	生物多様性保全に関する目標1 札幌市内の生物多様性が回復し、絶滅のおそれのある種が減っている。	レッドリスト掲載種数が2016年（297種）から増加していない。	レッドリストの改定年に決定した種数（おおむね10年ごと改定予定のため、2026年ごろに数値確定）	絶滅危惧種や現在札幌で見られなくなった生物種が現状より増えないことで、生物多様性の損失が食い止められていると考えられるため。
12			レッドリスト掲載種のうち、今見られない（EX+EW）が2016年（12種）から増加していない。	レッドリストの改定年に決定した種数（おおむね10年ごと改定予定のため、2026年ごろに数値確定）	絶滅危惧種や現在札幌で見られなくなった生物種が現状より増えないことで、生物多様性の損失が食い止められていると考えられるため。
13		生物多様性保全に関する目標2 札幌市内において保全地域が拡大している。	保護地域及び自然共生サイトの面積が札幌市の面積の●%になっている。	保護地域の面積（保護林なども含めた面積合算値から、どのぐらい増えたかを確認可能）	保護地域、認定地域は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として確認可能であるため。
14			自然共生サイトによる認定面積が●●km ² になっている。	認定地域の面積（環境省に認定地域の面積を確認）	保護地域、認定地域は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として確認可能であるため。
15			自然共生サイトの認定件数が●●件に達している。	自然共生サイトの認定件数を環境省に確認	保護地域、認定地域は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として認定件数を確認可能であるため。
16		生物多様性保全に関する目標3 札幌市内の生態系に影響を及ぼす外来種の生息が抑制されている。	市内に定着している外来種の防除及び生息調査を年間●日実施する。	調査及び防除活動実施延べ日数を確認（令和4年度実績27日（委託業務による実施日数も含む））	外来種調査及び防除活動の実施により、外来種による生態系への影響が低減されるため。
17		生物多様性保全に関する目標4 札幌市内の生物多様性が回復し、野生鳥獣とのあつれきが減っている。	アライグマの年間捕獲件数 年間●件以上	アライグマの年間捕獲件数を確認（令和3年度捕獲実績345頭）	農業被害、家庭菜園等への影響が深刻なアライグマを指標にして、あつれき軽減のために捕獲した実績数を指標とするため。
18			エゾシカによる交通事故件数の減少 年間●件以下	交通事故件数は警察のデータを確認（令和3年発生件数116件）	エゾシカの交通事故件数は市街地への出没により発生した影響を把握する指標となるため。
19			市民からの餌付け等相談件数の減少 ●件以下	年度単位で相談件数を集計（令和3年度実績200件）	餌付けに関する相談件数の減少は、野生鳥獣とのあつれき低減の指標となるため。
20			エゾシカの市街地出没対応件数の減少 年間●件以下	エゾシカの市街地出没対応件数を年度で集計（令和3年度実績97件）	エゾシカの市街地への出没頻度の指標となり、適切な個体数管理ができていくかを評価する指標の一つとなるため。
21		生物多様性保全に関する目標5 札幌市内の環境を表す指標種すべての生息・生育が確認されている。	札幌市内の環境を表す指標種すべての生息・生育が確認されている	自然環境調査、市民参加型調査等により、全ての種が生息していることを確認	環境を代表する種が確認されることで、札幌市の自然環境が劣化していないことが確認できるため。
22	生物多様性への理解を深め、将来に伝えていく。	生物多様性の理解に関する目標 生物多様性を理解している市民が増えている。	「生物多様性」の言葉の意味を知っている人の割合 ●%以上	市民アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果35.1%）	生物多様性について理解されているかどうかを直接確認できるため。
23			市民参加事業（観察会、外来種駆除体験などの実施回数） ●回以上	実績件数の確認（カウントする事業の範囲を決める必要あり、令和4年度実績、観察会2回、外来種駆除体験1回）	生物多様性についての理解が進む事業の実施回数が増えると理解している人の増加につながるため。
24			学校教育と連携した取り組みの実施（出前講座の実施件数） ●回以上	出前講座（ヒグマ講座含む）の件数（令和3年度実績22件）	生物多様性についての理解が進む事業の実施回数が増えると理解している人の増加につながるため。
25			市民からの餌付け等相談件数の減少 ●件以下	年度単位で相談件数を集計（令和3年度実績200件）	餌付けに関する相談件数の減少は、他人の迷惑になるような餌付けを実施している人の減少とみなせるため。
26			市民参加型指標種調査参加人数（データ送付があったチーム人数の合計） ●人以上	参加者数の確認（令和4年度実績1,929名）	市民参加の状況が数値として確認できる項目であるため。
27	札幌市は消費都市であることを認識し、札幌市、市民、企業、活動団体等は連携協働して地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う。	生物多様性に関する配慮の実行度に関する目標 生物多様性に配慮した行動をする市民、企業、活動団体が増えている。	生物多様性保全活動に参加したり、取り組んだりしている市民の割合 ●%以上	市民アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果3.3%）	市民が生物多様性保全に寄与する行動の実施が確認できるため。
28			生物多様性さっぽろ応援宣言登録を行っている企業、団体数 合計●件以上	生物多様性さっぽろ応援宣言登録企業数（令和4年12月現在 企業138 団体25、合計163）	企業、団体における生物多様性に寄与する行動を宣言し、実行につなげる取組が確認できるため。
29			原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品、サービスの購入をしている企業の割合 ●%以上	企業アンケートにより確認（令和2年度アンケート結果52.2%）	企業における生物多様性に寄与する行動の実施が確認できるため。
30			生物多様性に配慮する取組に関する情報公開をしている企業の割合 ●%以上	企業アンケートにより確認（令和3年度アンケート結果14.1%）	公表により生物多様性に寄与する行動の実施が確認できるため。
31			他団体との連携による生物多様性保全に寄与する活動を実施している企業の割合 ●%以上	データなし（【参考】：企業アンケート 他者が行う生物多様性保全活動への参加 令和3年度28.1%）	企業が他社と連携して実施する生物多様性に寄与する行動が確認できるため。
32			（仮称）自然共生サイト認定企業数 ●件以上	認定企業数確認	企業における生物多様性に寄与する行動の実施が確認できるため。
33			市民参加型指標種調査によるデータ件数 ●件以上	データ数の確認（令和4年度実績12,719件）	市民が生物多様性に興味関心を持って行動したことの実施件数が確認できるため。
34	市街地における市民参加型指標種調査実施地区割合（毎年カウント可能） ●%以上	データ数の確認（令和3年度実績77.4%）	市民が生物多様性に興味関心を持って行動したことの実施状況が確認できるため。		